

看護部トピックス Vol. 6

先輩ナースからのメッセージ！



みなさんお元気ですか！ナースちゃんです。この間、就職ガイダンスを聞いてきたよ。とっても良かったので「先輩ナースからのメッセージ」として紹介するね



去年も行ったよね！



今年はフライトナースの先輩からのメッセージだね！

松木絵里

私は、山梨県立中央病院 救命救急センターフライトナースの松木絵里と申します。本日は、当院の魅力をお伝えし皆さんに当院で働きたいなと感じて頂けたらと思っています。

みなさんも報道などでご存じの通り本年度より山梨県でもドクターヘリが導入され4月より運行を開始しています。今まで、山梨県には「あかふじ」という防災ヘリコプターのみが運航しておりました。山梨県は、周囲を山々に囲まれ、また、交通網が十分に整備されていない地域もあることからこれらの地域から緊急搬送が必要な患者さんが来院するまで救急車で30分以上の時間を要する所も多くあります。ドクターヘリでは、県内全域をおおむね15分以内でカバーすることが可能です。救急現場に一刻も早く医師が到着することで治療開始時間が短縮されまた、病院間搬送においても搬送時間の短縮に繋がります。この結果、ドクターヘリにより1.救命率の向上2.後遺症の軽減3.遠隔地域の救急医療の向上4.災害発生時の緊急対応が期待出来るのです。このようにお話しさせていただくと、医師の行う治療の力が大きいと感じるかもしれません。しかし、それだけではありません。救急現場には医師・看護師のみならず運行スタッフ・救急隊員・消防隊員など他

職種がおりその方々との連携、コーディネートが非常に重要となってきます。その調整役が看護師であり現場での高いリーダーシップ能力が求められます。また、治療処置が優先となりがちな救急医療現場においてわすれてはならないのが患者さんへの全人的な関わりです。患者さん家族にとって急病や事故そのものが緊急の事態でありそのストレスは図りしれません。そのためフライトナースとして、病態や予測しうる様々な変化に対応できるアセスメント能力の習得のみならず、患者さんの声に耳を傾け患者中心の医療が常に実践できるように心がけ日々実践しております。

みなさん、フライトナース興味はありますか。私は、看護師となり11年目。救命救急センターに配属され5年目となります。以前までは、内科病棟に勤務しておりましたが希望で救命センターに配属となりました。そして、フライトナースを志願し昨年度日本医科大学千葉北総病院へ二週間の研修にいき実務訓練を重ね実践能力を高めてきました。2ヶ月前フライトナースとして、初めて一人でドクターヘリに乗り医師と共に救急現場に行き、患者さんを目の前にした時の事は今でもはっきり覚えております。一刻を争う状況の中で、患者さんのために自分たちに出来る最大限のことは何かを自問自答しながら日々やりがいを感じておりますみなさんはどのような看護師になりたいですか。当院では、看護師自らが看護の課題を持ち、意欲的に自己啓発できる機会が多くあります。豊かな人間性と専門知識・技術を持ち、自分の看護観に基づいて主体的な看護ができる看護師が多くいます。みなさん、是非当院で一緒に働いてみませんか。皆さんと働ける事を楽しみにしております。



カッコイイね！